

## ●事例紹介●

## 学びの主権者としての学生力

～教育を受ける立場から教育を創る立場へ～

橋本 勝

(岡山大学 学生・教職員教育改善委員会副委員長  
教育開発センター教授 カリキュラム研究開発部門長)

## 一 はじめに ～少し長めの序文～

私には他の大学教員にはない特質がある。学生（正確には学生的身分）を一八年続けたという経歴である。無論、勉強がそんなに好きだったからではない。ではなぜ、という詮索はさておきとして、三〇代後半まで学生を続けた私の中には五〇歳を過ぎた今でもどこか学生の気分が抜け切らないところがあるのである。このことはこの小文を読む上でまず念頭に置いておいていただきたい。

大学教育の改善を論議する場合、いわゆる「広中レポート」<sup>(注)</sup>に依拠する人もそうでない人も、よく「学生のため

教育」とか「学生第一」という言葉を使うが、私から見るとそれは本心なのだろうかという気になる例も少なくない。例えば「今の学生は資格志向が強いので、うちの大学ではそのニーズに応えるべく資格試験のための授業を整備し、学生の尻をたたいてしっかり勉強させています。何といっても学生第一ですからね。」と自慢げに話す人がいるが、それははたして自慢すべきことなのだろうか。つまり、学生が資格取得を望むのは、誤った情報源に惑わされてそれを企業が望む「実践力」だと誤解しているからに他ならない。実は企業が大学生に期待する「実践力」がそうしたものでないことに就職活動の段階で初めて気づいた学生た

ちは慌てですがもう後の祭りである。本当は、学生たちの前記のニーズに対し、最初の段階で「ちょっと待て。君たちは本当に大学にそんなことを求めて入学してきたのか」と問い直したり、各種の調査結果を示して「企業は別の力を求めているよ」と軌道修正したりすることの方がはるかに「学生のため」なのではないのだろうか…。

岡山大学は平成一三年度から本格的に学生参画型教育改善を展開し始めた。私はその発案者ではないが、前記の私の特殊な経歴を知ってか知らずか、全学FD委員会は私をその推進エンジン役に指名した。以来六年半、私は一貫して、学生委員長と約三〇名の学生たち及びそれを支える約一五名の教職員からなる学生・教職員教育改善委員会（以下では「改善委員会」と表記する。尚、平成一五年度までは「学生・教員FD検討会」の教員代表を務めてきた。学生委員も教職員委員も毎年、約半数が入れ替わる中でここまで順調に発展してきていると総括できる。平成一七年度には特色GPにも採択され、全国的な注目度も一層アップした。今でも頻繁に取材や他大学の調査を受けるし、本年度に受けた認証評価の現地視察でも特に重視されたものの一つとなっている。

学生参画型教育改善の全体については、内容が多岐にわ

たることもあり、例えば改善委員会のホームページ <http://cfid.cc.okayama-u.ac.jp/std/> なうを参照していただくとして、ここでは特に最近の動向を中心に二つの事例を重点的に紹介することにとどめたい。

## 二 本格化し始めた学生発案授業

当初、なかなか実現しなかった学生発案授業も来年度には七科目を数えることになる。教養教育科目の主題科目の約五割を占める状況である。改善委員会の学生発案授業が他大学で時々見られる自主活動の正式授業化や本学の部活動の単位化等と根本的に異なるのは、それを発案・構想する学生たち自身がその科目を受講するケースは稀で、基本的に後輩や友人のためにそれを作り上げるといふ点と、担当を任せる教員との協働作業で細部を詰めていくという点である。これらは学生委員にマスとしての学生集団としての連帯意識を強めるとともに大学の「スタッフ」としての責任感や充実感を高めている。

開講される学生発案授業は次の七科目八コマである。

①公園を創る、庭園を楽しむ（語学教員が担当する理想の公園像を探究するフィールドワーク的授業）

- ② 大学授業改善論(各自の既履修科目の教員に授業改善を直接交渉に行くことを実践する授業)：ニコニコ開講
- ③ ドラえもんの科学(マンガ「ドラえもん」に登場する道具を専門的立場から科学的に解明する授業)
- ④ 知ってるつもり? コンビニ(多様な要素を持つコンビニを各所属学部の専門的視点から探究する授業)
- ⑤ This is Okayama: ver. Basic(岡山の様々な話題・知識を身につけ地域に親しむオムニバス授業)
- ⑥ This is Okayama: ver. Special(岡山の話題を素材にして学生の主体的学習を目指す授業)

⑦ 君は頭がよくならないか? 発信力(有名作家の講演を手がかりに発信力の向上につなげる授業)

いずれもユニークな内容であるが、どれ一つとして資格取得をねらったものはない。むしろ「大学で学ぶ意義は何か」「楽しく主体的に学ぶにはどうすればいいのか」を徹底的に追求した作業の結実であるといえてよい。③④⑦は創作授業コンテストでの優秀作品を実現したという意味でも学生の学習ニーズを反映しているし、多くの授業では基本構想段階で学内から担当教員を公募するという形をとっているため、潜在的に学内に眠っている教員の教育シーズの発掘にも一役買っている。尚、各科目のシラ

六名、一般学生二名の二八名)

この企画は一見、高校生に対する一方的なサービス提供に見えるが実はそうではない。参加する大学生にとっては確実に「自己の振り返り」ができる。高校生たちの姿に過去の自分を重ね合わせ、今の自分の大学生活を点検する契機にもなるし、初心に戻って今後の充実を目指すことにもつながるのである。実際、参加者に対するアンケートでもこの種の記述が目立っている。また、高校生たちの大学に対する淡い期待は普段見過ごしている大学の問題点に気づかせてくれる面も見逃せない。これは改善委員会の委員ならもちろんであるが、一般学生にとっても大学の改善に向けての意識向上につながることを期待される。さらに、こうした比較参加しやすいイベントを通じて、改善委員会の活動が一般学生を巻き込みながら拡大・深化していくという側面も重要である。本学の学生参画型教育改善は一部の熱心な学生たちが積極的に取り組むという図式ではなく、広く学生集団全体に浸透していく形を目指しているからである。

パスはWeb公開しており学外からでも参照できる。  
<http://cfid.cc.okayama-u.ac.jp/cgi-bin/db.cgi>

### 三 高大連携の新展開…出張キャンパスライブ相談会

今年度新たに開始したチャレンジもある。大学生がまとまって希望のあった高校に出かけて行き小グループに分かれた高校生たちの様々な疑問に対して自然体で回答しアドバイスするという「出張キャンパスライブ相談会」(Campus Life Advise by Students for Students)の頭文字を並べて愛称CLASS)である。

いわゆるオープンキャンパスでは大学の宣伝に終始するため、大学生になることに対する漠然とした高校生の不安感を払拭することができないし、受験雑誌等の各種メディアから得られる情報は、どこか「よそ行き」のものが多く、大学生の本音・実態の部分はわかりにくいという状況がある。こうした中で、改善委員会ができることはないかと考えた自主企画がCLASSである。今年度は一二月に岡山県内の私立A高校の高一・高二合わせて約一三〇名を対象に試行実施したが、全体に好評で地元メディアも初めての試みを高く評価している。(参加した大学生は委員学生一

### 四 学びの主権者を目指して…教育を創るという発想

私は大学における学生の位置づけを語る時よく「学びの主権者」という言葉を用いる。学習活動の主体である学生が主体的に学習に取り組むためには自らをその活動における主権者として自覚する必要があるからである。

大学教員はたいいてい自分を研究者として位置づけ、学生が大学院に進学したり、学士課程でも自分の研究室に所属して研究の一端を担うようになったりすると研究仲間という意識が強くなる。その一方で、授業で向き合う学生は教育サービスを提供する対象としてしか見ない傾向がある。教育熱心な教員でも、より効果的な授業を展開して学生たちの力量をアップさせようと意気込むケースが多く仲間という感覚はあまりない。しかし、それでは本物の主体的学習はできないのではないだろうか。

主権者としての学生は、提供される大学教育が自らの成長に必ずしもつながらないと思えば声を上げるべきであるし時には対案を示すべきである。教職員はそうした主権者の声に真摯に耳を傾けると同時に、本来の目標を見失ったような要求に対しては毅然とした態度も必要である。決し

て学生を顧客扱いするのではなく本来あるべき主権者の姿に誘導することこそが大学側に求められているからである。この双方向的努力が実を結べば相互理解の中で教育は必ずやいい方向に進み出す。この意味で教育は学生と教職員とが仲間意識で一緒に創る知的営為に他ならない。

学生が単に教育を受ける立場から創る立場へと立ち位置を変えた時、大学は一際輝きを増すはずである。岡山大学はそれを目指しているのである。

(注) 文科省高等教育局『大学における学生生活の充実方策について―学生の立場に立った大学づくりを目指して―』  
(2000.6) [http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chousa/koutou/012/toushin/000601.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/012/toushin/000601.htm)